

# 概 報

551.31 : 551.78 : 56(522.2)

## 佐世保市北方における「野島層」の疑いのある地層の発見

沢 田 秀 穂\*

Résumé

Discovery of the "Nojima Formation" at the north of Sasebo, Nagasaki Prefecture

by

Hideho Sawata

The writer could study the core from a borehole Yoshinoura No. 7 of Sumitomo Coal-mining Co. by courtesy of the company in August, 1953. He found a formation of sandstone and mudstone in the core. From this mudstone, *Yoldia?* sp., *Schizaster* sp. "Sagarites", *Cyclammina tani* ISHIZAKI and other foraminifera were found. The writer would like to correlate this formation with the "Nojima formation" of Dr. T. Ueji on views of stratigraphic, paleontologic and general geologic points, which considered as a new discovery of the formation in this area.

筆者は北西九州炭田群のうちの北松強粘結炭区域の編図に従事中、1953年8月、住友石炭鉱業株式会社の好意により、同社が実施した試錐芳の浦7号のコアを調べることができた。その結果、佐世保層群最上部層である野島層<sup>註1)</sup>の今まで知られていなかった佐世保市北方、国鉄世知原線以南の地域に、同層であろうと思われるものが分布していることがわかり、いくつかの化石もみいだされたのでここに報告する。「うに」の化石の同定は京都大学森下晶氏、貝化石および有孔虫化石の同定は本所水野篤行技官をわずらわした。本資料調査の便と資料とをあたえられた住友石炭鉱業株式会社、および化石同定の労をとられた上記2氏に深謝の意を表す。なお第1図は本所井上純夫<sup>註2)</sup>、春城清之助<sup>註3)</sup>技官等の資料から筆者がつくつたものである。

### \* 地質部

註1) 上治寅次郎：北松浦炭田地質図および同誌明書、1938。1949年以降の本所の調査により、同博士の野島層中、その下限にちかく不整合が知られ、元所員安原彰一により、この不整合直上にくる粗粒砂岩、その上位の含有孔虫泥岩、さらにその上の砂岩からなる地層に野島累層の名があたえられ(竹原平一・長濱春夫：佐世保炭田平田山鉱業12号試錐着炭とその堆積論上の意義、鉱山地質、2巻4号、1952)、この地層はさらに長濱春夫によつて加勢層と名付けられた(長濱春夫：いわゆる佐世保層群の時代について、地質學雜誌、59巻695号、1953、同：いわゆる佐世保層群の上部層について、未公表)。上治の野島層は安原の福井累層、長濱の福井層などの最上部をも含むものである。以下本文における層名は長濱による。

註2) 澤田秀穂・佐藤茂・杉武治・井上純夫：長崎縣北松浦炭田南部地区調査報告、地質調査所月報、2巻2号、1951

註3) 春城清之助・澤村孝之助：佐世保図録、未公刊

この試錐は第1図に示すとおり、佐世保市街の北西方約5kmに位置する。その附近には第三紀層を覆つて玄武岩類の岩層が広く分布し、その厚さは試錐地点において17mにおよぶ(第2図)。これから下には「佐世保炭田」の夾炭層である佐世保層群(第三紀層)がみられる。長濱技官の加勢層と思われる地層は、上記の表土下限から約50m下位までの間にあつて、下部約4.5mは細粒から粗粒の砂岩で、泥岩礫を含む。その上位には灰色泥岩がくる。この砂岩と泥岩との厚さは、採取されたコアにみられる地層の傾斜を考えると、断層により、欠けたりあるいは重なつていないものとして、それぞれ約3.5m、40m+となる(この泥岩の厚さは、他のところで知られた同一層帯と思われる泥岩の厚さよりもやや厚い)。この加勢層(?)の下位には福井層(?)があつて、細粒砂岩・泥岩・薄葉状互層をなす砂泥互層からなり、厚さ3cm程度の薄い炭層を含む。その厚さは約60m+と思われるが、これより下の部分ではこの試錐は破碎帯を数おおく縫い、コアの採取率がかなり低くなるところもみられる。これは第1図からも知られるように、この試錐が芳の浦断層<sup>註4)</sup>ぎわにおろされたものであるため、この断層あるいはこれに伴う破碎帯を縫っているからであろうと思われる。

化石のみみだされたのは加勢層(?)の上部泥岩からであつて、二枚貝 *Yoldia?* sp., うに *Schizaster* sp., 有

註4) 澤田・佐藤・一杉・井上：前出

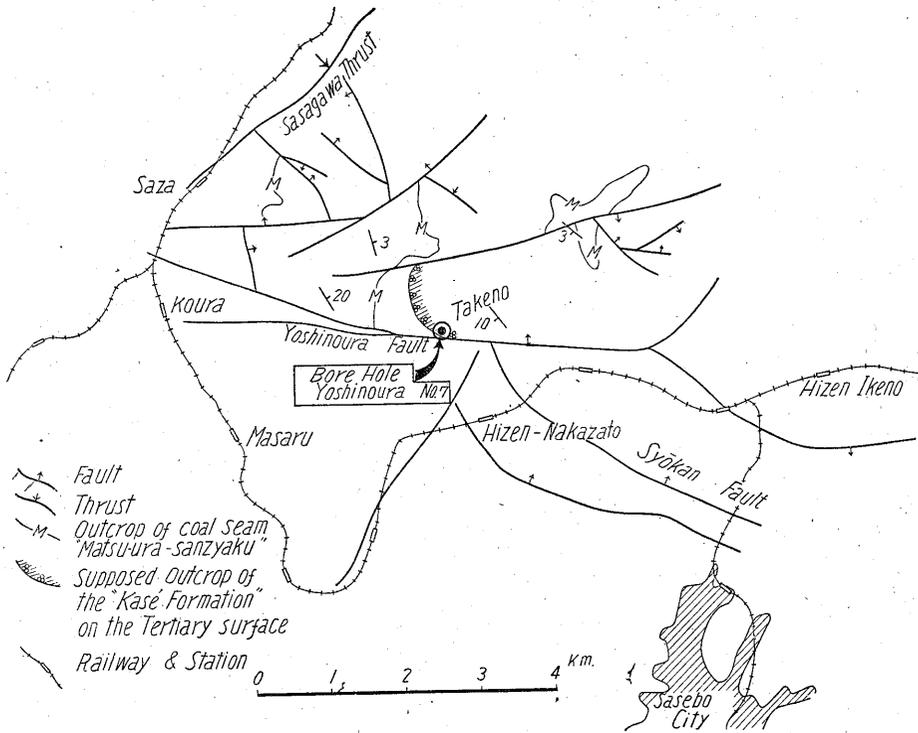


Fig. 1. Map showing the location of the B. H. Yoshinoura No. 7 and the general geology surrounding it.

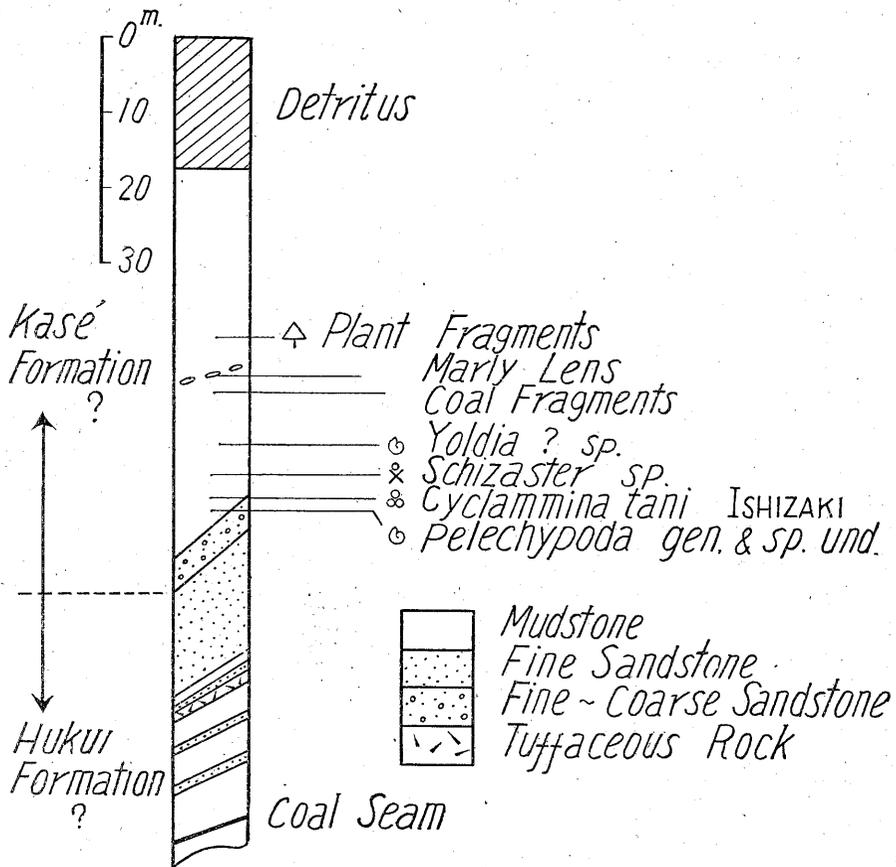


Fig. 2. Columnar section of the upper part of the B. H. Yoshinoura No. 7.

孔虫 *Cyclammina tani* ISHIZAKI, "Sagarites", そのほか二枚貝の破片などがしられた。

この含化石泥岩およびその下位の細～粗粒砂岩を加勢層に属するものであろうとした理由は、

1) 玄武岩類および同岩層におおわれたこの地域の、第三紀層表面の地層分布を、その周辺の既知資料によって推定し、作図すると第1図のようになること、

2) 問題の地層の層序・岩相・厚さ・化石などは、加勢層下部とかなりよく似ており、その下位にある福井層(?)も福井層と考えるとさしつかえがないこと、

3) 現在までに筆者が整理し、編集している佐世保層群についての資料の示すかぎりでは、加勢層とおなじような層序・岩相・化石をしめす地層は、この層群中にはほかにまだ知られていないこと、等である。

将来、佐世保層群中のほかの層準から、こゝに報じたような地層が知られないかぎり、この地層を加勢層と考えるてもさしつかえないであろうと思われる。

(昭和29年1月20日稿)

#### 追記

住友石炭鉱業株式会社・木原敏夫・菅原通敬：佐世保層群世知原層よりの有孔虫化石の産出 (鉱山地質4巻12

号)によれば、本誌ににおける上記泥岩からの有孔虫を次のように報じている (有孔虫鑑定者：村田茂雄)。

*Haplophragmoides compressum* LEROY

*H. cf. emaciatum* (BRADY)

*H. renzi* ASANO

*H. cf. trullissatum* (BRADY)

*Cribrostomoides Kyushuense* ASANO

*Cyclammina cancellata* BRADY

*C. incisa* (STACHE)

*C. japonica* ASANO

*C. cf. pusilla* BRADY

*Spiroplectammina Kitamatsuuraense* n. sp.

*S. saseboensis* n. sp.

*Dorothia yoshinouraensis* n. sp.

*Verneuilina saseboensis* n. sp.

*Pseudogaudryina cf. ishikiensis* ASANO

*Trochammmina ashियाensis* MURATA

*Robulus cf. lucidus* (CUSHMAN)

*Nonion cf. pacificum* (CUSHMAN)

*Gyroidina sechibarauensis* n. sp.

*G. cf. soldanii* d'ORBIGNY

なお木原・菅原はこれら有孔虫をふくむ泥岩を世知原層(野島層より下位にある)に属するものと考えている。